

# 月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構  
いわき病院

## 第188号

令和元年 10月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

### 信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します



## 第2回 地域連携研修会



10月4日、いわき病院会議室にて、『第2回地域医療連携研修会』が開催されました。今回は、講師に滋賀県立総合病院リハビリテーション科の中馬孝容先生をお迎えし、『パーキンソン病のリハビリテーションについて』ご講演いただきました。

パーキンソン病の症状は、運動症状だけでなく、非運動症状と多岐にわたります。このため、患者のニーズも様々です。パーキンソン病は、比較的早期より運動学習が進まない側面があり、発症早期よりリハビリの指導を開始し、自主練習の習慣化を図ることが大切となります。講演の中で紹介されたリハビリは、日常の中でもできる内容ということですので、是非取り入れてみてはいかがでしょうか。

いわき病院では、今後も皆さんに興味を持ってもらえるような研修会を企画して参りますので、医療従事者のみならず、一般の方々の参加もお待ちしております。

外来師長（地域医療連携係長）：琴畑 利昌





## 第28回 北海道・東北地区重症心身障がい研修会

9月28日(土)『第28回北海道・東北地区重症心身障がい研修会』がいわき市文化センターで行われました。今年はいわき病院が基幹病院となり、看護部、事務室、療育指導室が協力して準備を進めてきました。

東北の最南端という事もあり、参加者が集まるかどうか不安もありましたが、北海道・東北地区の国立病院機構病院15施設、みちのく療育園、福島整肢養護園、いわき市内の相談支援事業所などからの参加があり、250名を超える参加者がありました。

特別講演は、会津大学短期大学部・幼児教育学科の市川和彦教授を招き、『援助者がなぜ虐待に走るのか』というテーマで講演して頂きました。虐待の無い風土をつくるには、「～してない、～してはいけない」という引き算の発想ではなく、「～したい、～しよう」という足し算の発想へ転換する事が大切だという事を学びました。また、実技を交えた講義ではタッピングタッチやハンドマッサージを教えてくださいました。近年、障がい者虐待の報告が増えていると聞いております。1人の問題ではなく職場全体の問題と捉える事が大切だと感じました。

基調講演は、いわき病院の短期入所を利用している笠間様をお願いしました。笠間様には、『重症心身障がい児を持つ親の立場から』というテーマで講演して頂きました。お母様の正直な気持ちをストレートな表現でお話頂き、胸にぐっと刺さる物がありました。参加者からも、「とても良い講演だった」という感想が多数寄せられました。ご自身で「デイスサービス・ドリーム」を立ち上げたお母様の行動力と我が子へ注ぐ愛の力を感じる講演でした。

話題提供は、国立機構病院の各施設から口頭発表が13題、ポスター発表が10題ありました。今回の発表は、看護師17題・リハビリ3題・療育指導室3題でした。それぞれの職種がいろいろな側面から課題を見つけて、取り組んだ発表はどの施設も素晴らしいものでした。

2月に移転したいわき病院を紹介する「施設見学会」も行われました。研修会終了後いわき病院へ移動して頂き、60人近くの参加者が新築のいわき病院を見学して帰られました。

各施設の運営委員の方々やいわき病院のスタッフには大変お世話になりました。快く係りの仕事を引き受けて頂き、感謝しています。今回事務局を担当させて頂き、数々の失敗もありましたが、いろいろな部署が協力して研修会を作り上げていく達成感を味わう事が出来ました。また、他施設の方々と交流を深める事が出来ました。最後になりましたが、お世話になった関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

来年は八戸で開催が決まっています。この研修会が末永く続いていく事を祈願して、バトンを引き継ぎたいと思います。

主任保育士：小野寺 亜紀





## 令和元年度 いわき地域医療セミナーについて

いわき市では、福島県立医科大学と連携し地域医療を担う優秀な人材を育成することを目的として毎年「いわき地域医療セミナー」を開催しております。そのカリキュラムのひとつである医療型障害児(者)入所施設の施設見学が、8月8日、22日、そして9月26日の3回にわたり当院で行われました。当日は福島県立医科大学3年生と引率者を含む8名～11名の参加者が当院を訪れ、院長講話、病院内見学や意見交換が行われました。

院長講話では、当院で行っている神経難病医療、重症心身障害医療、ロボットスーツを使用したリハビリテーション及び本年2月に移転新設となったいわき病院の地域における役割等についての説明がありました。

病院内見学では神経難病・重症心身障がい病棟見学の際、医学生が神経難病の患者さんと文字盤やパソコン等を用いてコミュニケーションを図り、大変な驚きと感動を覚えた様子でした。患者さんからは「将来、立派なお医者さんになって欲しいです」と声を掛けられておりました。またリハビリテーション室では、実際にロボットスーツを着用してもらいましたが、その動きに「すごい!」といった驚きの声があがりました。

最後にご家族の方々や当院の医師、看護師、理学療法士、児童指導員との意見交換会を行いました。医学生の方々には、実際に体験し見聞したことで、有意義な時間を過ごしていただけたのではないかと思います。引率の先生からは来年も見学を受け入れて欲しいとのお言葉をいただきました。

ご協力頂きました患者さん、ご家族の方々、引率された担当者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後もこのような機会を得て、地域医療への一助となればと考えております。



副院長：鈴木 栄



## NHO PRESS ~国立病院機構通信~

いわき病院は、全国 141 病院からなる国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。

外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。



QRコード

NHO PRESS

検索

## いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科 (小児神経疾患)、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30~11:30 (ただし、救急患者は随時受け付けております。)
- 診療時間 8:30~17:15

### 外来担当医師診療日程表 【平成31年4月~】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	診療室① 鈴木 診療室② 市原	診療室① 無量井(第2)	診療室① 鈴木 診療室② 齋		診療室③ 仙台医療センター
	診療室③ 尾田宣仁	診療室③ 會田隆志	診療室③ 尾田宣仁	診療室① 関/會田 (交代制)	診療室① 関 晴朗
外科				診療室② 田崎 博	
脳神経内科専門外来 (予約制)					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診療室①》		(神経内科) 関 晴朗		
小児神経外来 (予約制)					
後	小児神経外来 《診療室①》	(小児科) 柳沢俊郎			(小児科) 柳沢俊郎



### お知らせ

#### ◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

#### ◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院病診連携を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**  
 National Hospital Organization Iwaki National Hospital  
 責任者 院長 関 晴朗  
 新所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1  
 TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075  
 ホームページ <http://iwaki-hosp.jp/>